

『時事直言』 No.1797 2026年4月13日国会議員号

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019) [Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

下記は今朝増田塾の皆様へ送った株式指南と国際情勢の要約

ニッケイ先物は CME で 1,200 円安の 56,180 円を付け、今日は 1,000 円以上安の 56,200 円前後で始まったが、300 円安の 56,500 円まで戻している。(午前 11 時)

アメリカとイランの和平交渉は、イランが濃縮ウランの平和利用は国家の主権だと言って製造停止と保有する 450 キロの 60%濃縮ウランの国際機関の管理下に置くことを拒否した為バンス副大統領は協議の継続は無駄と思い、帰国してしまった。

原油価格は協議決裂で 1 バーレル 97ドルから 104ドルまで上がり、ダウ先物は 550ドル以上下げた。ニッケイがあまり下げないのは、バンスの帰国はアメリカ独特の駆け引きで、仲介国アフガニスタンが言うように交渉が無くなったわけではないと思っているからだろう。

トランプは交渉決裂後、ホルムズ海峡支配を打ち出したが、遅きに失した感がある。

イランのホルムズ海峡支配は世界経済を人質に取ったイスラエルとアメリカに対する最大のカードである。イランがカードを持っている限り、トランプがいくら脅しても肝心の濃縮ウランについてイランは譲歩しない。イラン本土を 13,000 回も攻撃していながら、何故イランが「不動の航空母艦」と言うホルムズ海峡の 7 つの島を壊滅しなかったのか。

交渉前にすべきことを交渉が始まってから、交渉を中断して始めようとするなどトランプは何時も間違いだらけである。

アメリカの軍事専門家が言う通り米軍が全島に上陸しなければイランの不動航空母艦壊滅は出来ない。上陸作戦なら相当な人的犠牲が出るので、トランプはわかっていたが、出来なかったのだろう。(人命犠牲を恐れては戦争には勝てない)

今回のイラン戦争は初めからトランプの誤算だけであるが、戦争を終わらせ、ホルムズ海峡の安全航行確保には人命犠牲を覚悟の上で 7 島に上陸、イランの不動航空母艦を撃滅するしかない。

一方イランはもとより長期戦の構えであり、犠牲は厭わない。

戦争が長引き、米兵の犠牲が増えると、ただでさえ支持率を下げ続けているトランプは増々窮地に追いやられる。

ネタニヤフがレバノン猛攻撃で和平交渉を潰そうとしたのは、イランがカードを持っている限りいくら交渉しても無意味だからである。

ネタニヤフは、例え核兵器を使ってでも、イランが無条件降伏するまでイラン戦争はやめられない。

トランプが今までの誤算を知りホルムズ海峡の完全支配が最重要であることが分かったならイラン戦争はホルムズ海峡を戦場とした長期戦になり、原油価格は 1 バーレル 200ドル、株価はどこまで下がるかわからなくなるだろう。

又今まで通りの TACO(駆け引き)なら、トランプは内外の笑いものになり、株価は今まで通りの乱高下だろう。

小冊子 Vol. 157 お申込みは、<https://www.musrjec.com/>

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。